

2020年10月29日

江東区長 山崎 孝明 殿

2021年度江東区の施策と予算に関する要望書

江東・生活者ネットワーク
代 表 団 体 函 師 和 美
区 議 会 議 員 千 葉 さ き え

2021年度予算編成にあたり、下記の事項を要望いたします。

I 大事なことは市民が決める

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行による災難や危機的状況においても、オンラインの活用など工夫し、住民参加と意見表明の機会を保障する区政運営を滞りなくすすめる。
- オンラインを活用して行われる審議会や検討委員会など各種委員会における傍聴については、セキュリティ等に配慮したうえで、画像配信システムの活用を可能とする。
- 情報公開条例施行規則第14条(1)～(5)に定められた長期計画など重要な基本計画や、策定・進行にかかわる審議会・推進会議の議事録等の情報についても、区民がアクセスしやすい方法でホームページに公開する。
- 公文書管理法（公文書等の管理に関する法律）の主旨にのっとり、行政内部でのみ拘束力を持つ文書管理規則ではなく、公文書管理条例を制定する。
- 羽田空港の新飛行経路は、騒音や落下物、大気汚染など区民生活へ及ぼす影響が懸念される。区は率先して区民に周知するとともに、国や都に対して都心低空飛行を中止し海上ルートを守るよう求める。

II 誰もが安心して地域で暮らす

- 「地域共生社会」の実現に向け、福祉部とこども未来部が連携をはかり、既存の子ども食堂、社協カフェなどを地域で暮らす高齢者、障がい者、子どもなどが世代を超えて自由に利用できるようにする。また、気楽な相談場所ともなる地域福祉の拠点として整備し、コミュニティ・ソーシャルワーカー（地域福祉コーディネーターなど）、看護師や保健師など福祉の専門性を持つ人材を配置する。
- 家族介護者（ケアラー）が孤立しないよう、地域で包括的な支援拠点、支援ツールをつくり、複合的な課題を抱えるケースへの対応に取り組み、介護者本人の人生を応援する地域づくりをすすめる。
- ヤングケアラー（18歳未満で家族の介護を担わざるを得ない子ども・若者）の実態把握のため、福祉部局と教育委員会が連携し調査を実施する。
- 江東区地域福祉計画策定にあたり、地域福祉コーディネーター、民生児童委員、社会福祉協議会、町会、市民団体、ボランティアなど地域に根差した活動をしている団体や区民の参画のもとに、実効性のある地域の助け合い・支えあいの仕組みをつくり、地域福祉力を高める計画を策定する。
- 虐待防止、引きこもり解消、障がい者支援などに大きな効果が期待できるアウトリーチ型支援を拡充する。

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行による災難や危機的状況下でさらにすすむ困難な状況に置かれる弱者に対する施策を講じる。

Ⅲ 子どもの育ちを応援する

- 江東区こども・子育て支援事業計画の基本目標に掲げた「すべてのこどもの最善の利益の尊重」と「健やかな成長の保障」を区民とともに実現するために、江東区子どもの権利条例を制定するとともに、子ども施策の実施に当たっては子どもの意見表明の場をつくる。
- 子どもの虐待防止には、母子保健分野と子ども家庭福祉分野の連携を強化する。
- 児童相談所の区移管については、積極的な人材育成や人材確保を計画的にすすめ、児童相談体制を構築する。
- 待機児童対策は、保育園の数の確保とともに保育の質を確保する。保育の内容の実態を把握し、監査等を充実させ、保育従事者の待遇を改善する。
- 貧困による教育格差をなくすために、「まなびサポート事業」や給付型奨学金制度を充実させ、教育と福祉が連携し、学習面だけではなく子どもの心のケアや学びの環境づくりに取り組む。
- 障がいがある子もない子と共に地域の通常学級に在籍し、それぞれの子どものニーズに対応するための教育環境を整える真のインクルーシブ教育をすすめる。
- 小中学校で、支援を必要とする子どもだけでなく、周りの子どもたちや教職員、保護者をもエンパワメントするために、作業療法士の活用をすすめる。
- 子どもの最善の利益を守り、子どもが自由に遊び過ごす場として、児童館や公園、子ども食堂、共生型の場所など多様な居場所を整備する。
- きッズクラブは、特別な配慮を要する児童(発達障がい、外国籍児童など)について、必要な人員や場を確保する。
- 食育とともに子どもの健康維持に果たす役割が大きくなっている学校給食を、新型コロナウイルス感染症の流行による不測の事態においても工夫して提供する。
- 学校給食費は、教員の負担を減らし会計業務の透明性をはかるために公会計化する。
- スクールソーシャルワーカーの配置を拡充し、学校を基盤(核)として児童生徒の問題解決をはかる。

Ⅳ 多様性を認め合う共生社会をつくる

- セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（生涯を通じた性の健康と権利）をもとにした国際セクシャリティ教育ガイダンスに沿った包括的性教育を低学年から実施し、性教育の充実をはかる。
- デートDV 予防講座を全中学校で実施する。
- DV 防止策として、加害者更生プログラムを導入する。
- 政策・方針決定過程への男女平等参画のため、あらゆる審議会等において女性参画率目標40%の達成に努める。
- 多様な性を認めあい、性的指向・性自認が尊重され、性的少数者に配慮したまちづくりをすすめるために、職員に向けた研修や区民に向けた意識啓発をさらにすすめる。

- 保育や教育の現場において、教職員及び保護者を対象に性的少数者に関する意識啓発をさらにすすめ、いじめや差別への不安を持つ当事者である子ども、児童生徒に配慮した環境整備を行う。
- 区政運営において、申請書等の性別記載欄の検証をさらにすすめ unnecessary 性別の表記を見直し、性的少数者に配慮したサービス体制を整備する。
- 同性カップル等を公的に認めるパートナーシップ制度に向け、検討委員会を設置する。
- 男性職員の育児休業取得率が国の目標 30%を超えるよう積極的に取り組む。

V 命をつなぐ環境をまもる

- 子宮頸がん予防には、早期発見に有効な検診の周知とともに、検診を受けやすい環境整備を行う。
- 予防接種の際には、副反応などのリスクについて十分な説明を行う。
- 体調の変化の大きい産前・産後のケアの充実と、育児へ切れ目のない支援が続くよう、地域担当保健師とつなげ、新型コロナウイルス感染症による不安やリスクを抱える妊産婦への支援を推進する。
- 海洋プラスチック問題など地球規模の重要課題となっているプラスチックごみ削減を、具体的な区の施策・事業として積極的に取り組む。
- 香りつき商品の成分による健康被害「香害」の危険性を周知し対策を行う。
- 庁舎など公共施設、学校や保育所など子どもが利用する施設では、手洗いや食器洗い、清掃に、合成界面活性剤や添加物の入っていない無添加石けんの使用をすすめる。
- 地球温暖化による気候変動の危機に対して、公共施設だけではなく区全体として再生可能エネルギーへのシフトをすすめる。
- 地球規模の課題となっている気候変動と温暖化防止、生物多様性、ごみ問題などの環境学習をすすめる。
- 避難所生活が長期化した場合の子どもの居場所・遊び場、学びの場を確保する。
- 大規模水害に備え、「洪水ハザードマップ～荒川が氾濫した場合に備えて～」 「大雨浸水ハザードマップ（隅田川・江東区内部河川流域）」 「江東5区大規模水害ハザードマップ及び広域避難計画」の活用をすすめ、事前の備えや地域事情に応じた避難訓練を実施する。

VI 平和を守る

- 子どもからおとなまで、憲法・平和を学び、憲法を活かし人権・平和を守る江東区づくりに取り組む。
- 多文化共生社会を理解し、地域から平和を築く。